道徳科通信

全学年用　　第５号
令和２年１２月４日
担当　岡野 恵子

11/30の3年授業を紹介します！
全教職員で授業を参観，研修しました。

教材名：『二通の手紙』（読み物資料）
－法やきまりの意義（遵法精神，公徳心）－

元（げん）さん―。彼は，動物園の入園係の仕事をしていました。定年まぎわでしたが，勤勉さと真面目さをかわれて，退職後も続けて臨時で働かないか，という話が持ち上がっていました。
そんな３月，春休みのある日……。

入園終了時間が過ぎ，入り口を閉めようとしていた元さんたちの前に，ある姉弟が姿を見せます。小学校3年生くらいの姉と３,４歳の弟です。最近，毎日，終了まぎわに姿を表し，柵の外から園内をのぞいていた2人でした。
「今日は弟の誕生日だから，見せてやりたかったのに…。」と，今にも泣き出しそうな姉の手には，入園料が握りしめられていました。
入園時間も過ぎている。しかも『小学生以下の子どもは，保護者同伴でなければならない』という園の規則を破り，元さんはその姉弟を園内に入れます。「なるべく早く見て戻るんだよ。」と声をかけて－。

閉園アナウンスが流れ，閉門時間の５時になり，人の流れが途絶えても姿を見せない姉弟。一斉捜索が始まりました。１時間がたった頃，園内の雑木林の小さな池で遊んでいた二人は，無事に発見されたのでした。

数日後，元さんあてに１通の手紙が届きました。姉弟の母からでした。家庭事情に触れ，「私たち親子に，ひとときの幸福を与えて下さったあなた様のことは，一生忘れない…」と，元さんに感謝を伝える手紙でした。
その直後，上司に呼び出された元さんは，もう１通の手紙を手にします。それは「懲戒処分」の通告であり，元さんは停職処分となりました。
２通の手紙を見比べながら，元さんは，同僚の青年につぶやきます。
― 子どもたちに何事もなくてよかった。無責任な判断で，万が一，事故にでもなっていたらと思うと…。初めて考えさせられることばかりです。２通の手紙のおかげで，新たな出発ができそうです。
はればれとした顔で，元さんは自ら職を辞し職場を去っていきました。

挿絵：中島梨絵「中学道徳 あすを生きる」（文教出版）

自分だったら，姉弟を入園させていただろうか？　それとも，規則を守り入園を断っていただろうか？

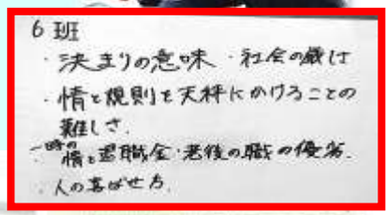
ネームプレートで自分の考えを明らかにします

自分だったら？【入園させる】…17名　【入園を断る】… ８名

【入園させる】理由は…？
◎かわいそう。断りづらい。◎弟のせっかくの誕生日だから。
◎入園はさせるけれど，自分もついていって見守る。
【入園を断る】理由は…？
◎姉弟を入園させたら，他の人も同じように入れないと，不平等になる。
◎子どもの安全の為にも，ルールは守らないといけない。

「二通の手紙」から，元さんが初めて考えさせられたこととは何か？

◎人の気持ちと規則は，一致しないこともある。
◎ルールや決まりの意味，社会の厳しさ。
◎情と規則とを，天秤にかけることの難しさ。
◎度を過ぎた規則やルールは，人を拘束するが，ある程度の規則は「人の命や秩序」を守る。
◎ルールや規則は「自分たちを守るため」のもの。
◎ルールや規則は「命を守るため」にある。
◎ルールは，縛るものではなく，「優しさ」や「抑止力」としてある。



「人生は選択の連続である」と言われます。一つ一つの判断に磨かれながら，私たちは 物事を見る目を深めていきます。